

Bulletion of Kagoshima
Prefectural Archaeological Center

From JOMON NO MORI

No. 12 CONTENTS

Study of chronology for a Jomon period pottery
in Kagoshima prefecture
- Focusing on carbide adhered to pottery -
Masayuki Kawaguchi, Rie Kuroki, Michifumi Tategami

Carbon14 dating of Tenjindan, Miyawaki site samples.
- Chronological position of Oshigatamon type pottery in
central Osumi region -
Kenichi Kobayashi, Michifumi Tategami

A re-examination of "bark-cloth beaters"
in the Yayoi period, Japan
- Three-dimensional documentation and observation -
Satoru Nakazono, Maki Tarora, Hiromi Hirakawa, Kaho Wakamatsu,
and Jun Shimokomaki

A Basic study on circumferential grooves relic of Yayoi period
in Kagoshima.
Tatsumi Yubazaki

About a stone wall Kagoshima castle after Genroku.
Shiro Abiru

Annual of Kagoshima Prefectural Archaeological Center of the 30th
year in Heisei

Kagoshima Prefectural Archaeological Center
March 2020

研究紀要・年報

縄文の森から

From JOMON NO MORI

第12号

鹿児島県における縄文土器の実年代
- 土器付着炭化物放射性炭素年代測定値から -
川口 雅之, 黒木 梨絵, 立神 倫史

天神段遺跡・宮脇遺跡出土試料の炭素 14 年代測定
- 大隅地方中部における押型紋土器の年代的位置付け -
中央大学 小林 謙一, 立神 倫史

弥生時代におけるいわゆる樹皮布叩石の再検討
- 三次元記録と観察から -
鹿児島国際大学 中園 聡, 太郎良真妃, 平川ひろみ, 若松花帆,
下小牧 潤

鹿児島県における弥生時代の周溝状遺構に関する基礎的研究
- 周溝状遺構の集成と考察 -
湯場崎 辰巳

鹿児島城跡元禄以降の石垣について
阿比留 士朗

平成 30 年度 年報

鹿児島県立埋蔵文化財センター
2020. 03

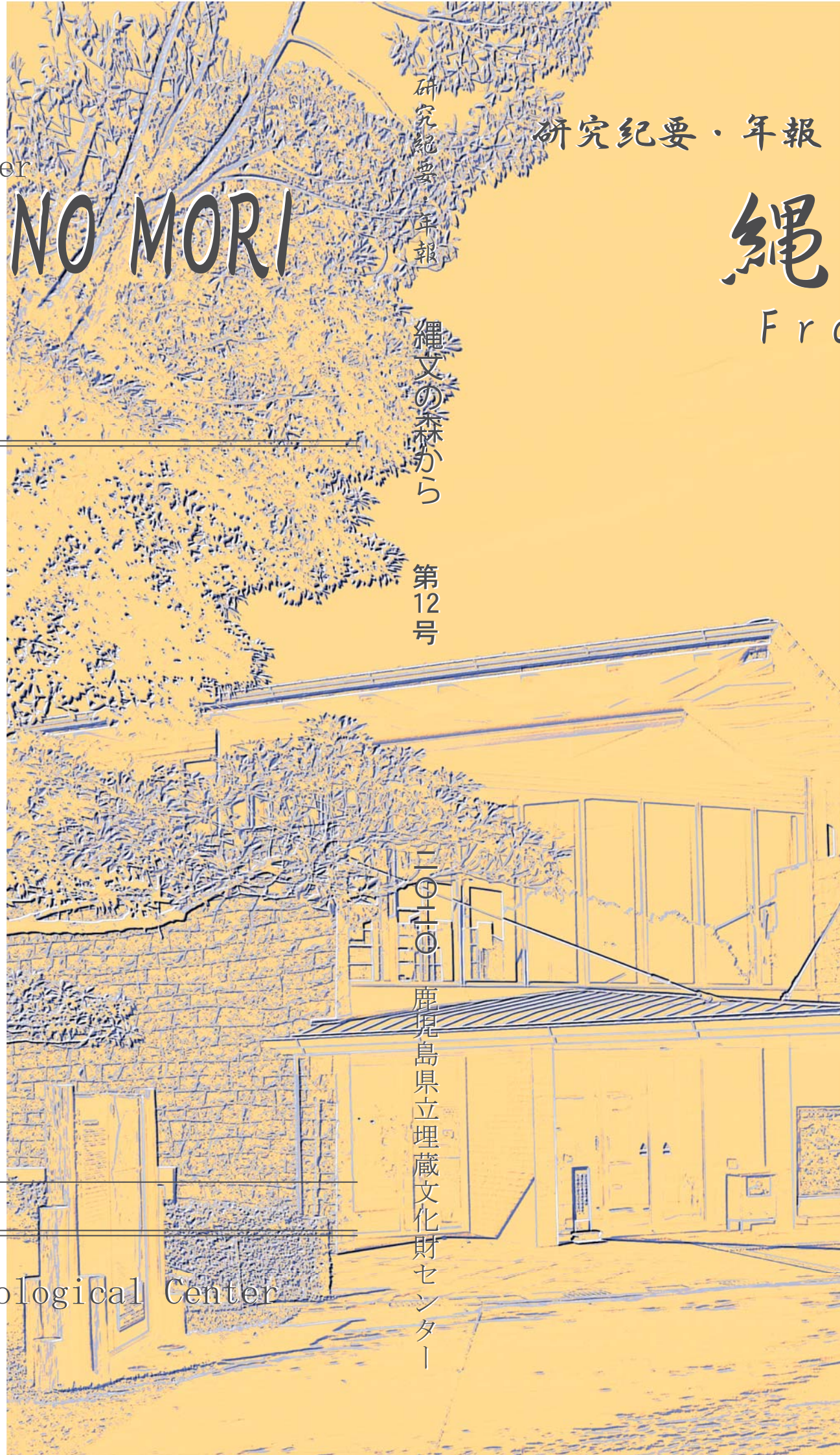
研究紀要・年報

縄文の森から

第12号

二〇二〇年

鹿児島県立埋蔵文化財センター



『縄文の森から』第12号 目次

鹿児島県における縄文土器の実年代

—土器付着炭化物放射性炭素年代測定値から—

川口 雅之, 黒木 梨絵, 立神 倫史 1

天神段遺跡・宮脇遺跡出土試料の炭素14年代測定

—大隅地方中部における押型紋土器の年代的位置付け—

中央大学 小林 謙一, 立神 倫史 24

弥生時代におけるいわゆる樹皮布叩石の再検討

—三次元記録と観察から—

鹿児島国際大学 中園 聡, 太郎良真妃, 平川ひろみ, 若松花帆, 30
下小牧 潤

鹿児島県における弥生時代の周溝状遺構に関する基礎的研究

—周溝状遺構の集成と考察—

湯場崎 辰巳 51

鹿児島城跡元禄以降の石垣について

阿比留 士朗 63

平成30年度年報 72

鹿児島県における弥生時代の周溝状遺構に関する基礎的研究

—周溝状遺構の集成と考察—

湯場崎 辰巳

A Basic study on circumferential grooves relic of Yayoi period in Kagoshima.

Tatsumi Yubazaki

要旨

本稿では、本県の弥生時代の周溝状遺構の基礎的研究として、周溝状遺構と周溝墓を規格・規模などの点から集成・分類し、その分析・検討を行った。その結果、集中する地域や時期、平面形状、規模が判明し、周溝状遺構と周溝墓の規格の違いを把握した。また、周溝状遺構の集落内での機能や系譜を考察した。

キーワード 鹿児島県、弥生時代、周溝状遺構、周溝墓

1 はじめに

弥生時代から中世にかけて、円形・方形・半円形・隅丸方形の平面形を呈した溝が巡る遺構が検出される。これらの溝の内側に、その他の遺構を伴わない場合が多く、溝が巡る特徴から「周溝状遺構」・「円形周溝」・「方形周溝」・「周溝遺構」等と呼ばれている。また、周溝状遺構内からの遺物の出土が少ないこともあり、その機能については不明な部分が多い。なお、周溝状遺構の内部に土坑が伴う場合は、「周溝墓」として認識されている。このほか、古墳時代の地下式横穴墓に周溝が伴う例や、中世の周溝墓が報告されている。

本稿では、鹿児島県の弥生時代の周溝状遺構と周溝墓を規格・規模などの点から集成・分類し、その機能や系譜の検討を行うこととした。

2 研究史

弥生時代の周溝状遺構の研究としては、片岡宏二氏が北部九州を中心に集成を行っている。その機能として、①墓地・墓域説②住居施設説③祭祀関係説の3つを検討しているが、結論にいたっていない。また、その中で、九州各県の様相を検討している。鹿児島県は、3遺跡4つの周溝状遺構を紹介しており、宮崎県の都城や鹿屋市に集中していることを指摘し、北部九州の影響を受けながらも、当地域の独自性による発展を指摘している（片岡 1989・1991・1994）。

3 集成・分析の方法

前述もしたが、平面形状が弧状や不明瞭なものも含め、「周溝状遺構」・「円形周溝」・「方形周溝」・「周溝」等呼称され、統一されていない。本稿では、呼称を「周溝状

遺構」として統一し、記載することとした。墓域にあり主体部（墓坑）があるものは「周溝墓」と呼ばれることが多く、周溝状遺構とは性格がことなるものとして、本稿で取り扱う。なお、周溝状遺構としたものの中には、周溝内部に土坑があり、周溝墓の可能性のある遺構もあったが、周溝墓との報告はないものは、周溝状遺構として取り扱った。

周溝状遺構の集成にあっては、平成30年度までに刊行された鹿児島県の報告書をもとに、弥生時代の周溝状遺構が報告されている遺跡から抽出した（第1表）。

集成の内容については、報告書の記載事項をもとに、平面形状・規模（長軸×短軸）・周溝幅・周溝の深さ・周溝に伴う遺構を記載した。その他、遺構名は報告書記載の報告名、形状は報告書のもを基本として記載している。馬蹄形や半円形を呈しているものでも、報告書の中で明確に円形と分類されているものは円形に含めた。実測図や報告内容等で明確でない判断したものについては、不明として記載している。なお、報告書に計測値の記載がないものは、実測図から計測している。

横峯遺跡と京ノ峯遺跡は周溝墓と報告されているため、第2表で扱うこととした。周溝に関する項目は、基本的に同じだが、周溝幅については記載がなく、実測図から計測した。平面形状は、円形と報告されており、円形として取り扱っている。また、主体部をもつことから、主体部の平面形状・軸方向・規模・深さを併せて集成している。これらの集成結果をもとに分析を行い、若干の考察を行った。

4 遺跡の概要と周溝状遺構の報告内容

周溝状遺構と周溝墓の検出された遺跡の調査概要と報告内容をまとめた。

(1) 横峯遺跡

種子島の西之表市にある標高 80～86 m の急な斜面に位置している。弥生土器、近世陶磁器が発見されている。弥生時代では、県内では初の弥生時代の「円形周溝」が報告されている。中央部に土坑が検出されたことから、古墳時代の円形周溝と比較・検討したうえで、埋葬施設の可能性が指摘されている。

(2) 上野原遺跡第 2～7 地点

霧島市国分の標高約 260m の通称上野原台地に立地する。遺跡は 10 の地点からなり、縄文時代から中世まで連続と続く複合遺跡である。このうち、2～7 地点は台地の北側に位置している。発掘調査の結果、縄文時代早期・前期・後期・晩期や弥生時代・古墳時代・古代・中世・近世に渡る遺構・遺物が発見されている。弥生時代では、竪穴住居跡 5 軒、掘立柱建物跡 2 棟、周溝状遺構 3 基、環状遺構 44 基、柵列 82 列、杭跡多数や前期～後期の土器、磨製石鏃、竪穴住居跡からは鉄鏃が報告されている。

「周溝状遺構」については、事実記載のみである。

(3) 加治木掘遺跡

曾於郡大崎町の標高約 200 m のシラス台地中央部に位置している。調査の結果、縄文時代早期・古墳時代の遺物や縄文時代中期・弥生時代・中世の遺構・遺物が発見されている。弥生時代では、竪穴住居跡 1 棟、円形周溝 2 基や山ノ口式土器、砥石が報告されている。周溝状遺構は「円形周溝」と報告され、馬蹄形や不明な形状を呈しているが、本来は円形であると推定している。機能は不明と報告されている。

(4) 前畑遺跡

鹿屋市郷之原町の標高約 70 m の広大なシラス台地のほぼ中央部に位置している。縄文時代早期から近世・現代まで、長期にわたる複合遺跡である。弥生時代の遺構・遺物は、中期末から後期初頭にかけて位置づけられるものである。遺構は、竪穴住居跡 3 軒、掘立柱建物跡 8 棟、円形周溝 1 基、溝状遺構 3 条が検出された。土器は、山ノ口式土器を中心として、須玖Ⅱ式土器に属する土器や瀬戸内系の矢羽根透かしの高環など、移入系土器が発見され、石器は磨製石鏃や扁平打製石斧・磨石・砥石などが報告されている。

周溝状遺構は「円形周溝遺構」と報告され、円形周溝→3号掘立柱建物→2号掘立柱建物と詳細に構築関係が検討されている。

(4) 中ノ丸遺跡

鹿屋市大浦町の標高 70m のシラス台地北東端に位置している。昭和 60 年と平成 16 年度に調査されており、弥生時代を主体とする遺跡で、ほかに縄文時代の遺物や近世の掘立柱建物跡、集石土坑などが発見されている。弥生時代では、中期末から後期初頭の遺構・遺物が発見

され、遺構は竪穴住居跡 5 軒、掘立柱建物跡 1 棟、円形周溝 3 基等がある。遺物は、山ノ口式土器や、磨製石鏃、凹石、砥石などの石器が出土した。

周溝状遺構は「円形周溝」と報告され、王子遺跡との類似性とその形状の特殊性を述べているが、埋葬施設や祭祀を示す遺物がないことから、機能は不明としている。

(6) 田原迫ノ上遺跡

鹿屋市串良町、標高約 117 m の笠野原台地北東部の縁辺部に位置している。縄文時代早期から近世にかけての複合遺跡である。弥生時代の遺構は、竪穴住居跡 31 軒、掘立柱建物跡 40 棟、円形・方形周溝 12 基、土坑 25 基、柱穴列 6 列が発見されている。山ノ口式土器、擬凹線系壺、磨製石鏃、砥石、土製勾玉、土製加工品など、多くの遺物も報告されており、県内最大級の集落遺跡である。

(7) 王子遺跡

鹿屋市王子町の標高約 72m の笠野原台地北西縁辺部に位置している。縄文時代早期と弥生時代の遺構・遺物が確認され、そのほとんどの範囲が弥生時代中期末から後期初頭にかけての大規模な集落跡である。弥生時代の遺構では、竪穴住居跡 27 軒、掘立柱建物跡 14 棟（棟持柱をもつもの 6 棟、掘立柱に土坑を伴うもの 2 棟を含む）、土坑 4 基、溝状遺構 2 条などが検出されている。遺物は、山ノ口式土器を中心に、須玖式土器や下城式土器などが出土している。また、凹線文をもつ土器や、瀬戸内系土器も出土している。

周溝状遺構は「23号住居」と関連して報告され、特殊な遺構であると捉えられている。

(8) 井手上A遺跡

志布志市有明町の菱田川と安楽川に挟まれた河岸段丘状の台地にあり、標高約 80 m の第二段丘面に位置している。弥生時代では、竪穴建物跡 5 基、方形周溝 2 基（1 基は竪穴建物）、土器埋設遺構 1 基などが報告されている。遺物は、前期末～後期末にかけての土器が出土している。

周溝状遺構は「方形周溝」と報告され、事実記載のみである。

(9) 京ノ峯遺跡

志布志市松山町の標高約 165～170 m の独立丘陵、西端に位置する。縄文時代前期から弥生時代、古墳時代、中世にわたる複合遺跡である。弥生時代の円形周溝墓 20 基と方形周溝墓が 2 基、祭祀に使用したと思われる土坑が 2 基、古墳時代の地下式横穴墓が 8 基、また、中世のものと考えられる方形周溝墓が 2 基発見されている。

周溝状遺構はなく、「周溝墓」と報告されている。その特徴として以下の 6 つの点がまとめられている。

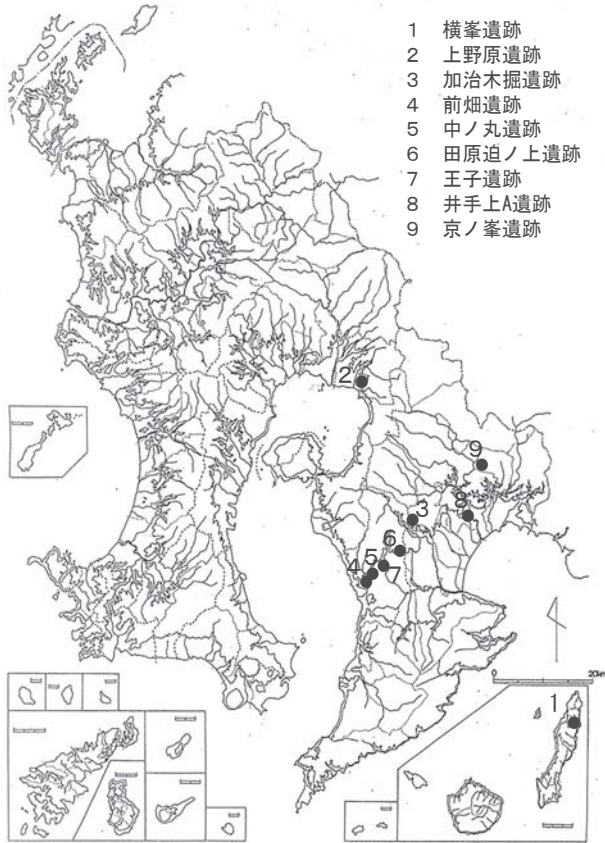
- ①墳丘をもたないこと。
- ②陸橋部がないこと。

③1条の周溝に対して、1基の主体部であること。

④周溝内部に火山灰が認められること。

⑤主体部及び周溝内に副葬品を伴わないこと。

⑥周溝墓が互いに切り合わないこと。



第1図 各遺跡位置図

5 分析

(1) 周溝状遺構について

周溝状遺構は計7遺跡23基の報告を集成した(第1図2~8)。時期は、弥生時代中期後葉~後期初頭(山ノ口Ⅱ式土器)である。

弥生時代の周溝状遺構の平面形状は、円形と方形で、平面形状の内訳は、円形16基、方形2基、不明5基である。そのほとんどは、円形を基調とすることが分かる。なお、平面形状が半円形や馬蹄形を呈していても、削平や攪乱により周溝が検出できなかったとされており、もともとは円形であったと判断している遺跡が多い。そのため、今回の集成では円形とした。

円の形は、楕円形になるものは少なく、正円を意識しており、陸橋部を検出できた類例はないため、出入り口はないと考えられる。周溝状遺構に伴う別の遺構は、土坑や柱穴が報告されている。しかし、同時期性を示す報

告はない。また、周溝状遺構内からは、まとまった遺物の出土はなく、流れ込みと判断される。

周溝状遺構のある位置は、集落内の各箇所に見られ、規則性は見いだせなかった。

ここからは、円形を呈する周溝状遺構、方形を呈する周溝状遺構、周溝墓について分けて分析する。

(2) 円形を呈する周溝状遺構

規模は、長軸で見ると最小のものが上野原遺跡2号周溝状遺構(第2図-2)で220cm、最大のものは、田原迫ノ上遺跡円形周溝2号(第3図-13・実測図は弧状)の520cmである。実測図が円形で報告されているものでは、田原迫ノ上遺跡円形周溝7号(第3図-11)の440cmである。概ね300~450cmに収まるものが多い。

周溝幅と深さは、遺構の検出面で大きな違いがあるため、構築時の様相を示しているとはいえないが、分析を行いたい。

周溝幅は中ノ丸遺跡円形周溝1号(第2図-7)が一番狭く18~25cm、最大のものは田原迫ノ上遺跡円形周溝2号の64cmである。周溝の深さは、浅いものは加治木掘遺跡円形周溝2号(第2図-4)の6で、最大のものは円形では、田原迫ノ上遺跡円形周溝7号の75cm、形状不明の周溝状遺構を含めると、田原迫ノ上遺跡円形周溝10号(第4図-22・調査区外に伸びているが、円形の可能性が高い)の111cmである。調査時には、池田火山灰やアカホヤ火山灰上層での検出数が多いため、幅は30~50cm、深さは20~40cmが多い印象だが、幅が50cm、深さが100cmを超える周溝状遺構があることは注意を払う必要がある。

円形として分類したが、特徴のある周溝状遺構が報告されている。1つが田原迫ノ上遺跡円形周溝3号(第3図-10)である。内側に410×340cmの円形周溝が巡り、その外側の南北に弧状の周溝が巡る、二重円形周溝状遺構である。2つ目が王子遺跡23号住居跡(第2図-9)である。竪穴住居跡の床面に円形周溝状遺構が発見されている。新旧関係の記載がないため、不明な部分があるが、柱穴が周溝状遺構を切っており、住居跡と周溝状遺構の埋土に違いがある。円形周溝状遺構が古く、その後形状に合わせて住居が構築された可能性がある。

なお、今回不明としたものが5基あるが、いずれも円形の可能性が高いと考えている。

(3) 方形を呈する周溝状遺構

方形を呈する周溝状遺構は、田原迫ノ上遺跡の方形周溝(第4図-17)と井手上A遺跡の方形周溝2(第4図-18)である(方形周溝1は竪穴住居と報告されている)。

田原迫ノ上遺跡の方形周溝は、長軸720×短軸450cmで、円形を呈する周溝状遺構より一回り大きい。井手上A遺跡は、長軸275×短軸224cmと一回り小さい。現時点では、方形を呈する周溝状遺構の詳細は不明である。

(4) 周溝墓について

京ノ峯遺跡では、22基の周溝墓が報告されている。そのうち20基が円形周溝墓、2基が方形周溝墓と報告されている。

実測図から円形周溝墓の内訳を検討すると、完全に円形を呈しているものは4基、半円形ものもが11基、弧状のものもが5基である。報告書では、半円形・弧状のものは、地形や削平の影響により、周溝が検出できなかったが、円形の可能性が高いと判断されている。

完全に円形を呈している4基の規模は、径が300～400cm、周溝幅が160～200cm、深さが30～70cmである。周溝状遺構と比較すると幅が2倍近くあることが分かる。方形周溝墓についても、同様で周溝幅が広い。

各遺跡で検出面の違いがあり、単純に比較はできないが、周溝状遺構と周溝墓の違いは、周溝墓の方が、径が大きく、周溝幅が広いことに違いを見出すことができる。

もう一点の違いは、周溝墓は主体部をもつことである。周溝1条に対して、1基の主体部である。主体部の平面形状はすべて方形と呈し、規模の平均値は長軸187×短軸53cm、深さ40cmである。最小のものは、4号方形周溝墓(第5図-28)の140×60cm、最大のものは13号円形周溝墓(第5図-26)の240×70cmである。軸方向は17基が東西方向で、方位の規則性があることが窺える。

報告書と重なる部分もあるが、遺構配置図(第6図)から考察を行うこととする。

丘陵の頂上(標高約170m)に、13号円形周溝墓を頂点として、丘陵北側に周溝墓が配置される。3号方形周溝墓だけが遺跡北西側に位置している。列状になる配置や、周溝に複数の主体部が配置される様相は見られない。

竪穴住居跡や掘立柱建物跡がないことから、墓域と生活域が明確に区分されている。古墳時代とされる地下式横穴墓との切り合いはあるが周溝墓間での切り合い関係がないため、規則的あるいは、比較的短期間に構築された墓域と推測される。円形周溝墓と方形周溝墓の違いを遺構配置から見出すことはできなかった。

なお、横峯遺跡の円形周溝墓は、保存のために完掘されておらず、詳細は不明であるが、径が600cm、周溝幅100cmで、周溝状遺構より規模大きく、主体部に土坑が伴うことから、報告にあるように、周溝墓の可能性が高いと考えられる。

6 まとめ

周溝状遺構と周溝墓について分析を行ったが、判明したことをまとめておきたい。

- ・周溝状遺構は、大隅半島のみで検出されている。
- ・周溝状遺構の時期は、弥生時代中期後葉～後期初頭(山ノ口Ⅱ式土器)である。

・周溝状遺構は、円形と方形の2分類のみで、そのほとんどが円形である。

・現在のところ明確に陸橋部を示す周溝状遺構はなく、伴う遺構や、まとまった遺物の出土の報告もない。・周溝墓と周溝状遺構の規模を比較した場合、周溝墓の方が周溝の径が大きく、周溝幅が広い。

さらに、その機能や系譜等について考察を行いたい。

周溝状遺構は集落内で検出されており、基本は竪穴住居跡・掘立柱建物・周溝状遺構がセットで発見される遺跡が多い(7遺跡中5遺跡)。当時の集落の基本的な施設と考えるべきであろう。その機能は、明確な報告はないため不明だが、正円を意識した造りになっていることから、円が特別な意味をもっていたと考える。そのため、住居施設や家畜等を飼育するための施設ではなく、祭祀等を意識した施設であろう。ただし、前畑遺跡や田原迫ノ上遺跡、王子遺跡では、周溝状遺構に切り合って、掘立柱建物跡や竪穴住居跡が構築されており、遺物の出土も少ないことから、単発的で比較的生活に密着した祭祀の場であった可能性がある。

次に系譜について検討したい。周溝状遺構は、大隅半島に発見される。当該時期の掘立柱建物跡も大隅半島のみで発見されていることから、同じような傾向を示す(湯場崎2018)。池畑耕一氏は、南九州における掘立柱建物跡は弥生時代中期後半に限られることから、「倭国大乱」の際に、瀬戸内から逃れた人々により建造されたものと述べている(池畑1992)。各遺跡から、瀬戸内系土器が出土していることや、愛媛県文京遺跡からは南部九州系の土器(山ノ口式土器)の出土が報告されている。これらのことから、相互交流があったと考えられる。今後は、当該時期の瀬戸内や宮崎県、熊本県の検討を行い、その系譜をさらに探る必要があろう。

弥生時代の周溝墓は、曾於郡天崎町永吉天神段遺跡でも、発見されている。今年度報告書刊行予定のため、詳



写真1 永吉天神段遺跡円形周溝墓

細は不明だが、少し触れおきたい。

標高約 50 m の微高地最頂部に周溝墓 1 基があり、南西方向へ、概ね列状に多数の土坑墓が検出されている。京ノ峯遺跡では、同一の周溝墓の集まりであるが、永吉天神段遺跡の場合、1 基の周溝墓を頂点として、複数の種類の土坑墓が分布し、階層的な要素が見られる。報告書刊行により、当該時期の墓域の研究が進むことを期待したい。(湯場崎 2014, 隈元 2018)

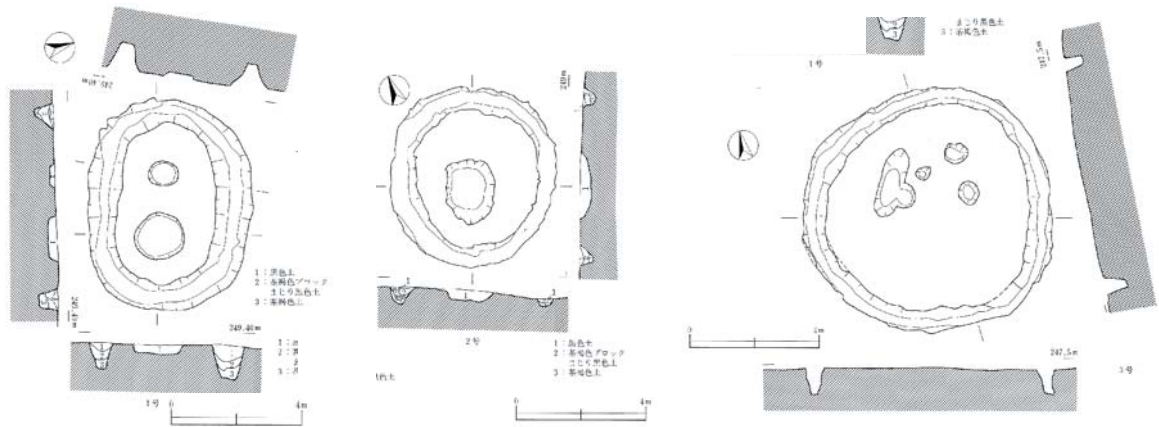
謝辞

本論をまとめるにあたり、岩永勇亮氏・上床真氏・柴田昌児氏・中村和美氏・東和幸氏・宗岡克英氏に資料提供やアドバイスをいただいた。記して感謝申し上げたい。

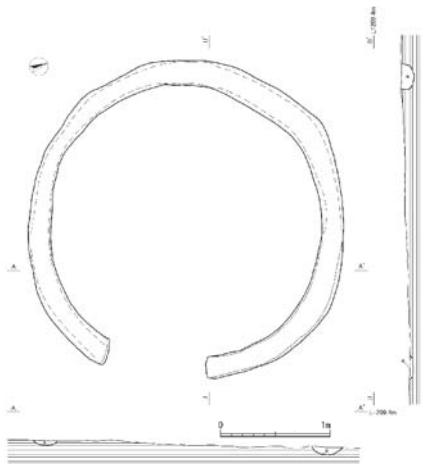
引用文献・報告書

- 池畑耕一 (1922) 「南九州での掘立柱建物出現の意味するもの」『究班』埋蔵文化財研究会。
- 上床真 (2019) 「志布志湾岸における中世墓の再検討—中世前半期を中心として—」『中山清美と奄美学—中山清美氏追悼論集—』奄美考古学会。
- 片岡宏二 (1989) 「周溝状遺構の検討 (その 1)」『福岡考古第 14』福岡考古懇話会。
- 片岡宏二 (1991) 「周溝状遺構の検討 (その 2)」『福岡考古第 15』福岡考古懇話会。
- 片岡宏二 (1994) 「周溝状遺構の検討 (その 3)」『福岡考古第 16』福岡考古懇話会。
- 藤島伸一郎 (2017) 「立小野堀地下式横穴墓群における地表構造及び木材閉塞方法」『縄文の森から』第 10 号 鹿児島県立埋蔵文化財センター。
- 隈元俊一 (2018) 「永吉天神段遺跡の発掘調査成果」『道路の下の物語 かがしま遺跡フォーラム 2018 資料集』鹿児島県立埋蔵文化財センター。
- 湯場崎辰巳 (2014) 「永吉天神段遺跡発掘調査速報」『かがしま遺跡フォーラム 2014 資料集』鹿児島県立埋蔵文化財センター。
- 湯場崎辰巳 (2019) 「鹿児島県における弥生時代の掘立柱建物跡の基礎的研究」『縄文の森から』第 11 号 鹿児島県立埋蔵文化財センター。
- 鹿児島県教育委員会 (1977) 『指辺・横峯・中ノ峯・上焼田遺跡』「鹿児島県埋蔵文化財調査報告書」(5)。
- 鹿児島県教育委員会 (1985) 『王子遺跡』「鹿児島県埋蔵文化財調査報告書」(34)。
- 鹿児島県教育委員会 (1989) 『中ノ丸遺跡・川ノ上遺跡 (第 3 分冊)』「鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書」(48)。
- 鹿児島県教育委員会 (1990) 『前畑遺跡』「鹿児島県埋蔵文化財調査報告書」(52)。
- 一般国道鹿屋バイパス建設に伴う発掘調査報告書 (Ⅲ) (第六分冊) 鹿児島県立埋蔵文化財センター (2003) 『上野原遺跡』第 2～7 地点 「鹿児島県立埋蔵文化財センター 発掘調査

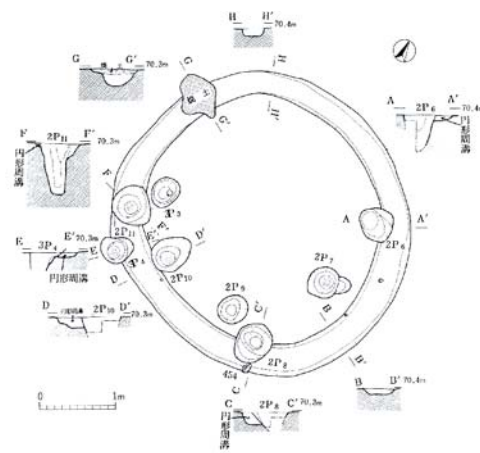
- 報告書」(52)。
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター (2006) 『中ノ原遺跡・中ノ丸遺跡』「鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書」(102)。
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター (2008) 『前畑遺跡Ⅱ』「鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書」(133)。
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター (2009) 『領家西遺跡・天神平溝下遺跡』「鹿児島県立埋蔵文化財センター」(141)。
- 志布志市教育委員会 (2012) 『井手上 A 遺跡 (1・2 次)』「志布志市埋蔵文化財発掘調査報告書」(6)。
- 愛媛大学埋蔵文化財調査室 (2014) 『文京遺跡Ⅶ-3-文京遺跡 16 次調査 A 区-』「愛媛大学埋蔵文化財調査報告」(XXVI-3)。
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター (2015) 『加治木堀遺跡』「鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書」(183)。
- 公益財団法人鹿児島県文化振興財団鹿児島県埋蔵文化財調査センター (2016) 『田原迫ノ上遺跡』「公益財団法人鹿児島県文化振興財団 埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書」(5)。



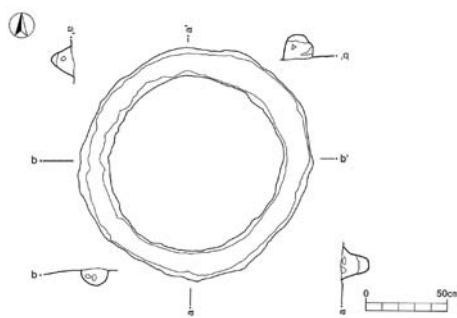
1：上野原遺跡 1号周溝状遺構 2：上野原遺跡 2号周溝状遺構 3：上野原遺跡 3号周溝状遺構



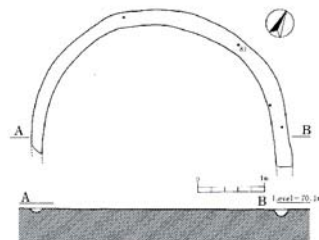
4：加治木堀遺跡 円形周溝2号



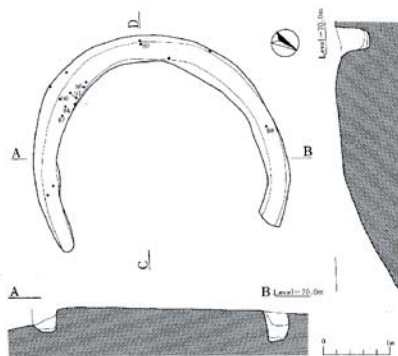
5：前畑遺跡 円形周溝遺構



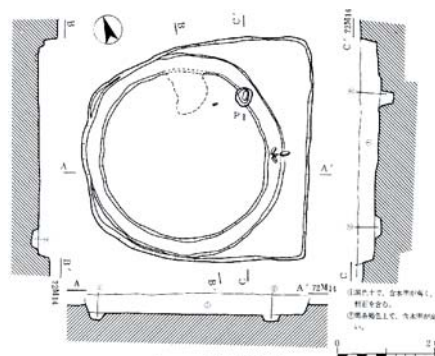
6：中ノ丸遺跡 円形周溝状遺構



7：中ノ丸遺跡 円形周溝1号

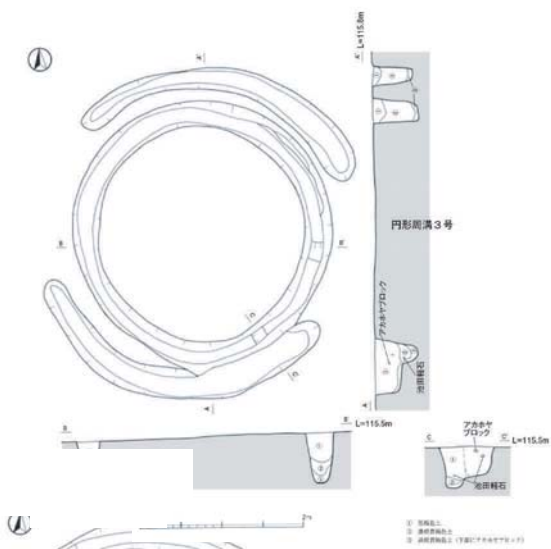


8：中ノ丸遺跡 円形周溝2号

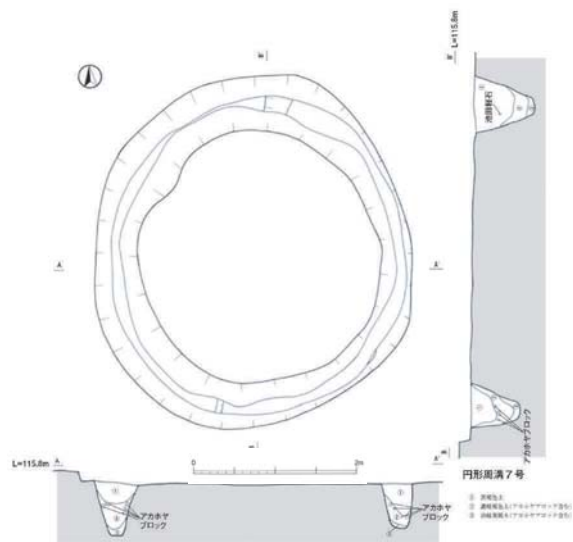


9：王子遺跡 23号住居跡

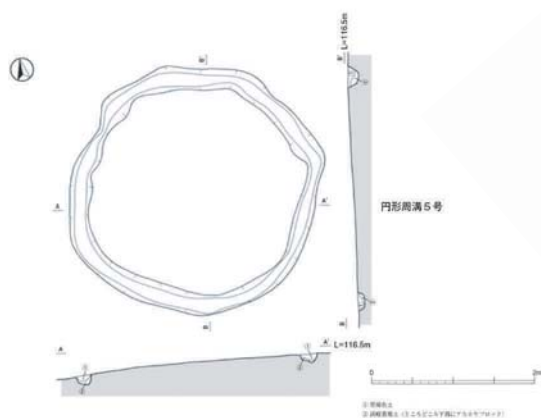
第2図 1～9 (円形) 縮尺任意



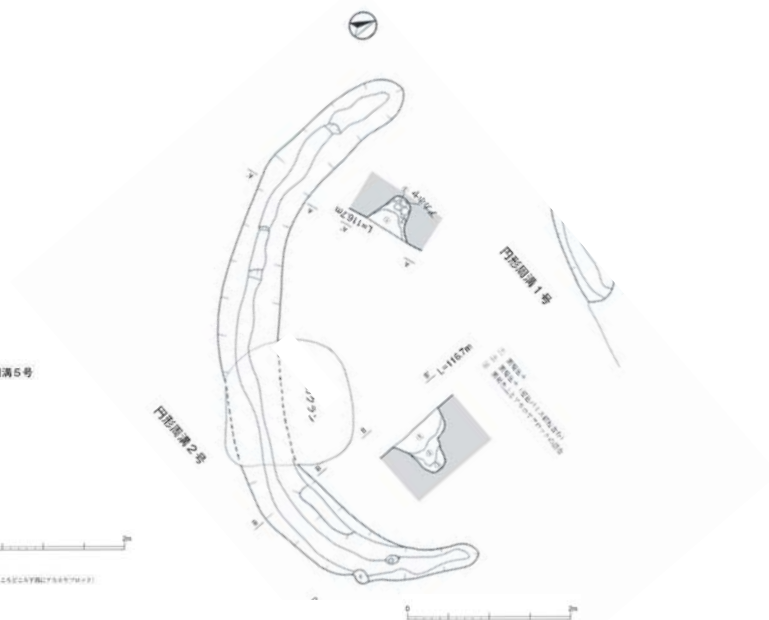
10：田原迫ノ上遺跡 円形周溝3号



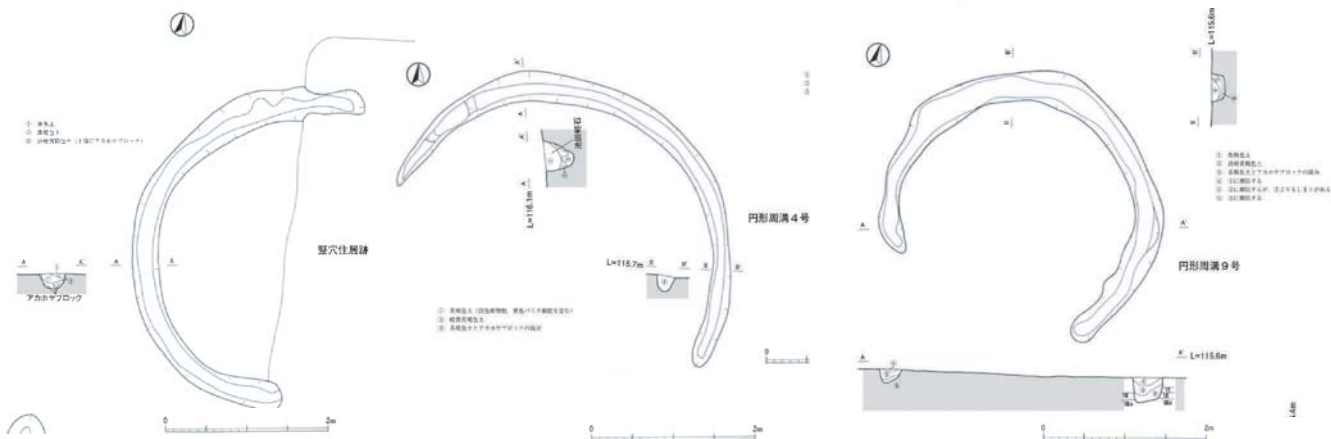
11：田原迫ノ上遺跡 円形周溝7号



12：田原迫ノ上遺跡 円形周溝5号



13：田原迫ノ上遺跡 円形周溝2号

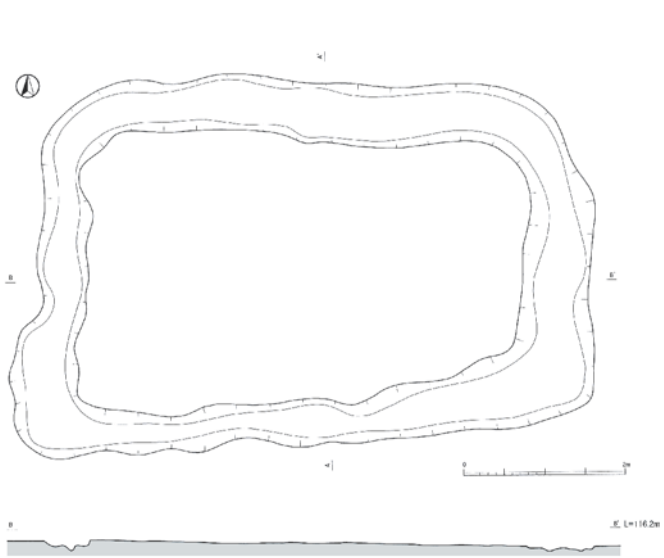


14：田原迫ノ上遺跡 円形周溝1号

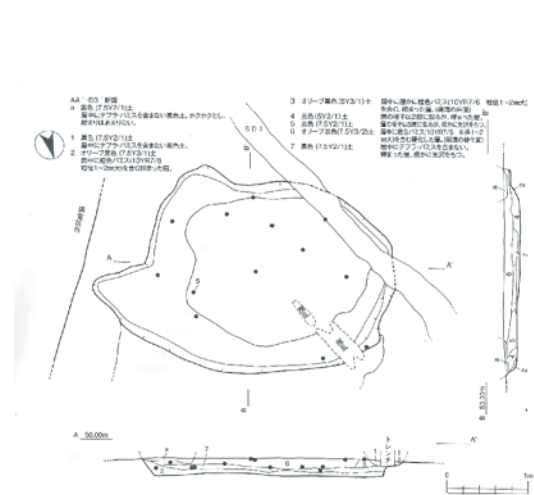
15：田原迫ノ上遺跡 円形周溝4号

16：田原迫ノ上遺跡 円形周溝9号

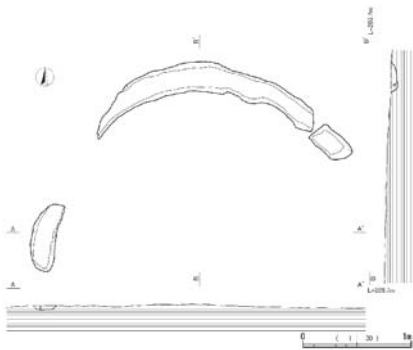
第3図 10～16（円形）縮尺任意



17：田原迫ノ上遺跡 方形周溝



18：井手上 A 遺跡遺跡 方形周溝 2



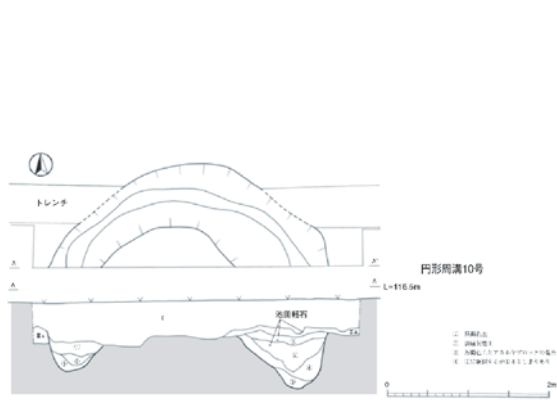
19：加治木掘遺跡 周溝周溝 1号



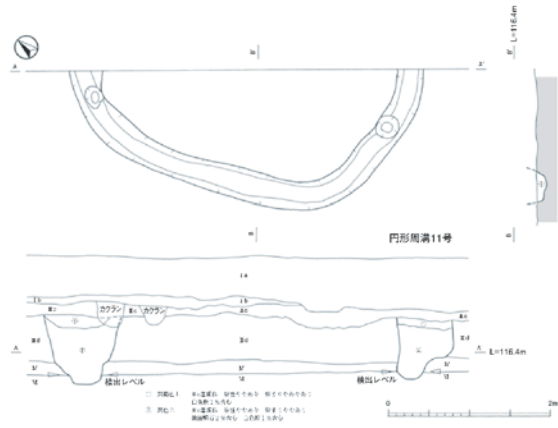
20：田原迫ノ上遺跡 円形周溝 6号



21：田原迫ノ上遺跡 円形周溝 8号

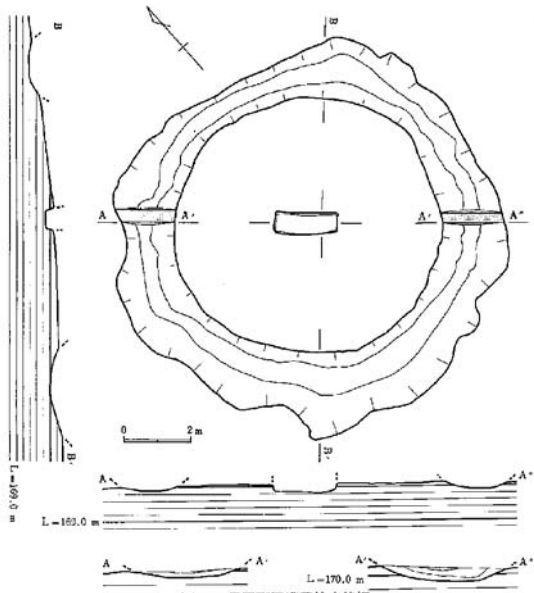


22：田原迫ノ上遺跡 円形周溝 10号

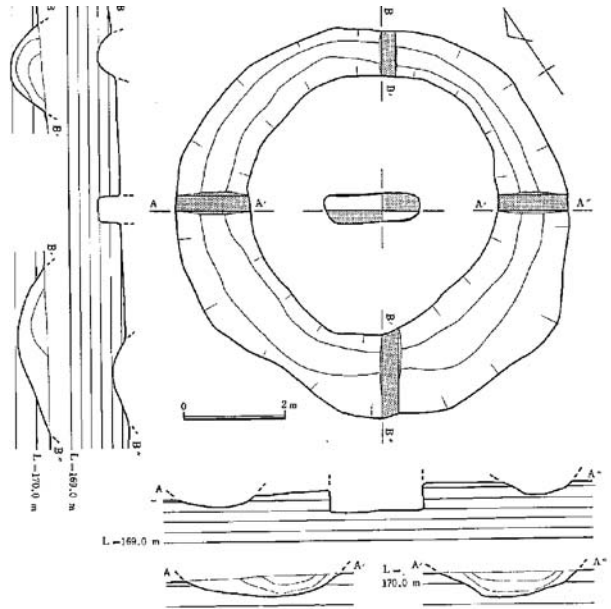


23：田原迫ノ上遺跡 円形周溝 11号

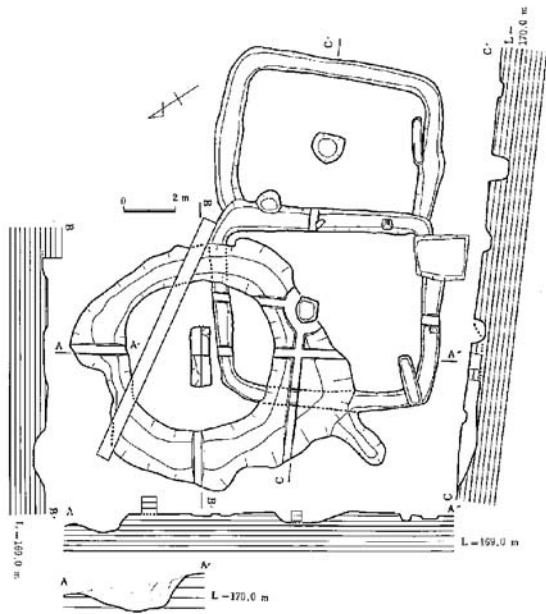
第4図 17と18 (方形)・19～23 (不明)



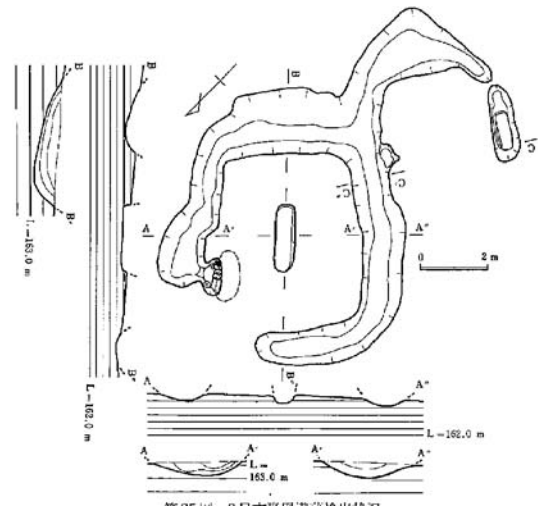
24：京ノ峯遺跡 3号円形周溝墓



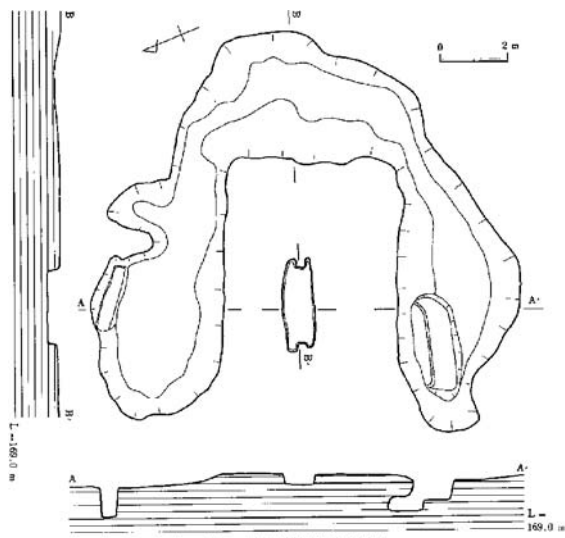
25：京ノ峯遺跡 10号円形周溝墓



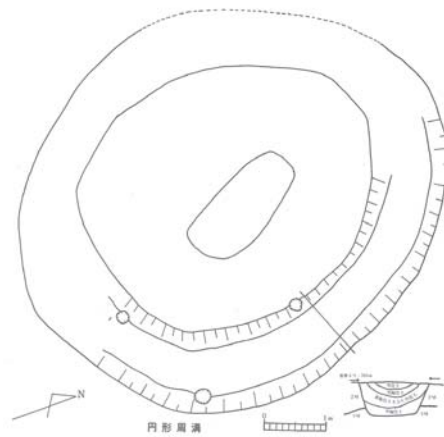
26：京ノ峯遺跡 13号円形周溝墓



27：京ノ峯遺跡 3号方形周溝墓

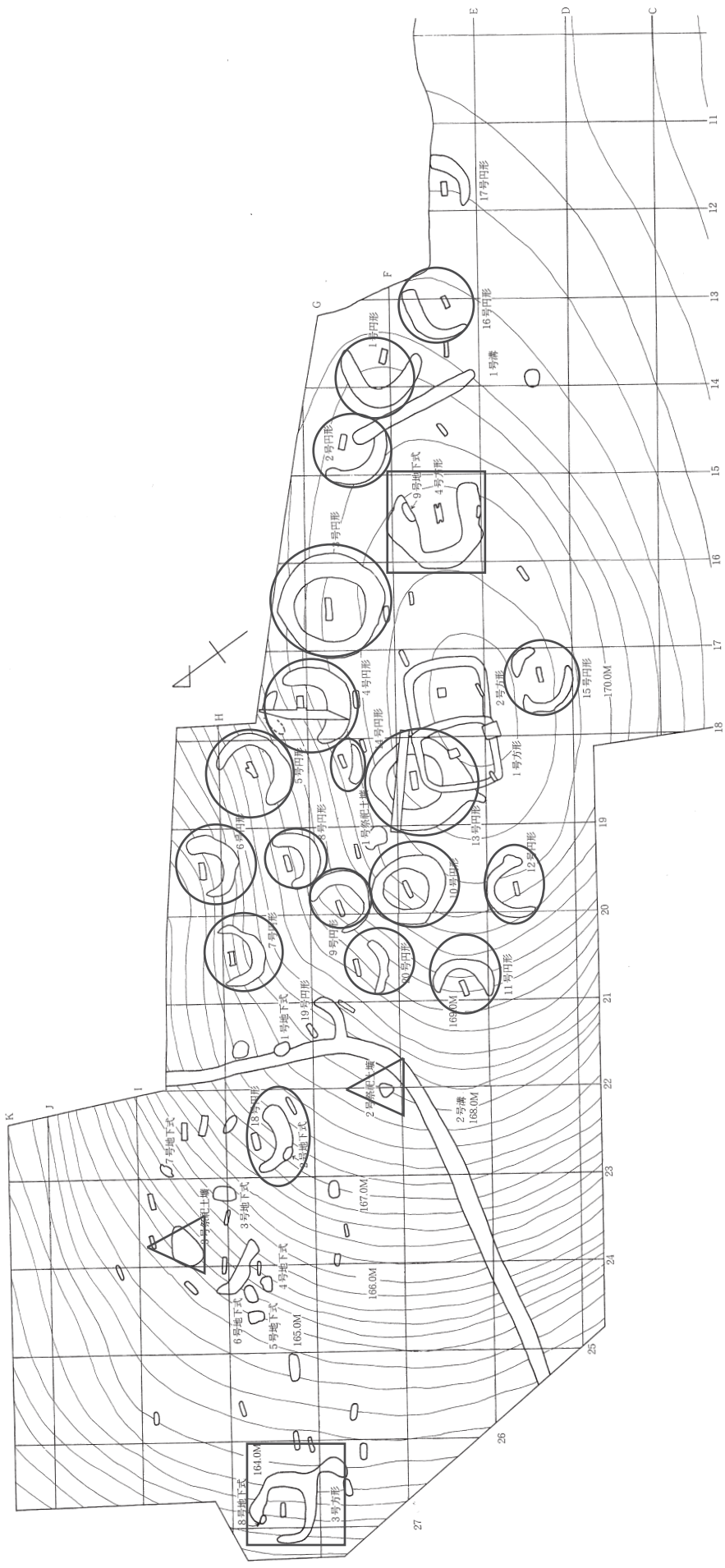


28：京ノ峯遺跡 4号方形周溝墓



29：横峯遺跡 円形周溝遺構

第5図 24～29 (周溝墓) 任意縮尺



- 凡例 ○ 円形周溝墓
 □ 方形周溝墓
 △ 祭祀土坑

印の無い遺構は、古墳・中世・近世と報告されている遺構

第6図 京ノ峯遺跡遺構配置図

第1表 周溝状遺構一覽

遺跡名	所在地	図番号	遺構名	形状	規模(長軸×短軸)	周溝幅(cm)	周溝深さ(cm)	伴う遺構	備考
上野原遺跡第2～7地点	霧島市国分川内 字田吹・錦迫 堂ヶ尾・駒迫・ 十文字	第2図-1	1号周溝状遺構	楕円形	260×200	30～45	25～30	土坑2	
		第2図-2	2号周溝状遺構	円形	220×200	20～35	8～20	土坑1	
		第2図-3	3号周溝状遺構	円形	300	25～40	25～40	土坑1・柱穴4	
		第4図-19 第2図-4	円形周溝1号 円形周溝2号	不明 円形	160 300	20 20	6 1～12		
加治木掘遺跡	曾於郡大崎町野方	第2図-5	円形周溝遺構	円形	400	23～50	9～16		3号掘立柱建物跡・2号掘立柱建物跡との切り合い
		第2図-6	円形周溝状遺構	円形	290	30～40	20～30		
中ノ丸遺跡	鹿屋市大浦町字中ノ丸	第2図-7	円形周溝1号	円形	390	18～25	8～12		円形と報告(削平のため、半円形)
		第2図-8	円形周溝2号	円形	380	35～50	30～50		円形と報告(攪乱により、馬蹄形)
		第4図-17	方形周溝	長方形	640(北)720(南) 400(東)450(西)	50～80	12		
		第3図-14	円形周溝1号	円形	400×250	20～45	21		半円形であるが円形と報告 竪穴住居跡25号との切り合い
田原迫ノ上遺跡	鹿屋市串良町細山田	第3図-13	円形周溝2号	円形	520×230	30～64	51		半円形であるが円形と報告
		第3図-10	円形周溝3号	円形	410×340	30	63		二重円形
		第3図-15	円形周溝4号	円形	450×230	22～36	36		半円形であるが円形と報告
		第3図-12	円形周溝5号	円形	330×300	22～28	15		
		第4図-20	円形周溝6号	不明	220	48	15		
		第3図-11	円形周溝7号	円形	440×390	40～54	75		
		第4図-21	円形周溝8号	不明	200	35	5		
		第3図-16	円形周溝9号	円形	360×350	30～40	30		半円形であるが円形と報告
		第4図-22	円形周溝10号	不明	350	60～76	111		
		第4図-23	円形周溝11号	不明	430×170	40	86	柱穴2	
		王子遺跡	鹿屋市王子町王子	第2図-9	23号住居跡	円形	424×415	33～40	7
井手上A遺跡(1・2次)	志布志市有明町字井手上	第4図-18	方形周溝2	隅丸長方形	275×224	21～59	4～8	周溝中央に硬化面	方形周溝1は竪穴建物と報告

第2表 周溝墓一覧

遺跡名	所在地	図番号	遺構名	形状(実測図)	周溝部			主体部				
					規模(cm)	周溝幅 (cm)	周溝深さ (cm)	形状	軸	規模 (長軸×短軸)	深さ (cm)	備考
京ノ峯遺跡	志布志市松山町	—	1号円形周溝墓	円形(半円)	400	120	5	方形	南東	170×50	20	
		—	2号円形周溝墓	円形(半円)	500	120	5	方形	南東	180×50	30	
		第5図-24	3号円形周溝墓	円形	400	160	30	方形	東西	180×40	20	
		—	4号円形周溝墓	円形	300	160	50	方形	東西	(160)×72	30	
		—	5号円形周溝墓	円形(半円)	300	112~152	5	方形	南西	210×60	40	
		—	6号円形周溝墓	円形(半円)	300	144~176	5	方形	東西	200×60	30	
		—	7号円形周溝墓	円形(半円)	300	144	40	方形	東西	200×60	50	木棺の痕有り
		—	8号円形周溝墓	円形(半円)	250	160	10	方形	東西	190×50	60	
		—	9号円形周溝墓	円形(半円)	300	104~176	20	方形	東西	200×50	60	
		第5図-25	10号円形周溝墓	円形	300	80~160	40	方形	東西	190×50	50	
		—	11号円形周溝墓	円形(半円)	250	104~144	20	方形	東西	170×50	60	
		—	12号円形周溝墓	円形(半円)	250	112~160	30	方形	東西	180×80	50	
		第5図-26	13号円形周溝墓	円形	300	200	70	方形	東西	240×70	10	
		—	14号円形周溝墓	円形(弧状)	200	80~200	10	方形	東西	210×50	40	
		—	15号円形周溝墓	円形(半円)	200	96~144	20	方形	東西	180×50	50	
		—	16号円形周溝墓	円形(弧状)	200	80~200	5	方形	東西	180×50	30	
		—	17号円形周溝墓	円形(弧状)	200	160	10	方形	東西	170×50	60	
		—	18号円形周溝墓	円形(半円)	200	120~200	50	方形	東北東	190×60	70	
		—	19号円形周溝墓	円形(弧状)	200	100	50	方形	北東	200×50	50	
		—	20号円形周溝墓	円形(弧状)	200	80	20	方形	東西	190×30	40	
第5図-27	3号方形周溝墓	方形	800×600	80~200	50	方形	東西	200×25	20	8号地下式横穴墓との切り合い		
第5図-28	4号方形周溝墓	方形	700×500	400	10	方形	東西	140×60	30	9号地下式横穴墓との切り合い		
横峯遺跡	西之表市	第5図-29	円形周溝遺構	円形	600×600	100	55	楕円形	北西	200×100	不明	柱穴3

鹿児島県立埋蔵文化財センター

研究紀要・年報 **縄文の森から** 第12号

※なお、本研究紀要は査読誌です

発行年月 2020年3月

編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター

〒899-4318 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2番1号

TEL 0995-48-5811

E-mail maibun@jomon-no-mori.jp

URL <https://www.jomon-no-mori.jp>

印刷 有限会社 国分新生社印刷

〒899-4301 鹿児島県霧島市国分重久627-1
